

十字架

じゅうじか

市指定

所在地：西町



大正9年に、篠山城下町の町屋において、店舗改造のため壁をとりこわした際、その中から発見されたものである。

譜代大名の移封による篠山城築城以前、当地は八上城周辺を中心に切支丹信仰が盛んであった。篠山城築城に伴う城下町の建設に当たっては、旧城下であった八上から住民を強制移転させ町屋を作っており、切支丹信仰を持つ人々の移住も多かったものと見られる。そういった中の一人が、慶長17年(1612)の江戸幕府によるキリスト教禁制以後、信仰を隠すため十字架を壁中に塗り込め、壁に向かって日々礼拝をしたものと推測される。潜行切支丹の存在を明らかにする貴重な遺品である。

縦11cm、横7cm。